

認知症初期集中支援チーム実施状況(平成28年1月～6月)

資料2

①

	相談件数	支援対象者 (検討中含)	支援終了者	支援対象外
みどり病院	19	11(2)	1	8
白根緑ヶ丘病院	7	3	2	4
合計	26	14	3	12

② 訪問支援対象者 世帯構成 (N=14)

独居	2
夫婦のみ	5
子と同居	7

③ 訪問支援対象者に至らなかった理由 (N=12)

助言のみで支援	2
状態が落ち着いた	4
拒否	1
医療機関につながった・サービス導入	5

④ 訪問支援対象者 対象分類 (N=14)

医療・介護サービスを受けていない	11
医療・介護サービスを受けているが、BPSDが顕著なため対応に苦慮している	3

⑤ 年齢階層別・性別 訪問支援対象者 (N=14)

	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～90歳	90歳以上	計
男	1	1		2		1	5
女	1	1	1	2	4		9
計	2	2	1	4	4	1	14

⑥ 要介護度別 訪問支援対象者 (N=14)

	未申請	要介護1	要介護2
計	5	8	1

⑦ 初期集中支援の訪問回数 (N=3)

	1回	4回
計	1	2

⑧ 初期集中支援終了に至るまでの期間 (N=3)

	1～5週間	6～10週間	11～15週間	16～20週間	21～25週間
計	1(4週)			1(18週)	1(24週)

⑨ 初期集中支援終了後の生活の場所 (N=3)

在宅継続	3
------	---

⑩ 初期集中支援終了後の引継先 (N=3)

介護支援専門員	3
---------	---

⑪ 1回訪問所要時間

平均	79.5分
----	-------

⑫ チーム員会議開催状況

	月開催回数	1回所要時間
平均	5.3回	46.5分

《認知症初期集中支援推進事業 まとめ（平成28年1月～6月）》

利点	<ul style="list-style-type: none">●多職種（チーム）の視点での、支援・評価ができる。特に医療側の評価が行える●チーム（多職種）で関わるため、より専門的・幅広いサービスが検討でき、かつ丁寧・濃厚な関わりができる。●専門医の介入により、医療機関へのアプローチがスムーズである。●顔の見える連携。医療への相談が身近になり、安心感がある。
課題点	<ul style="list-style-type: none">●本人、家族の訪問・支援拒否事例への対応●地域住民も含め、家族への認知症を正しく理解してもらうための啓蒙が必要●地域住民や関係機関（かかりつけ医、ケアマネジャー等）に、チームの役割や機能についてのさらなる普及啓発

課題に対する考察

●本人、家族の訪問・支援拒否事例への対応

⇒支援拒否の理由をアセスメントし適切な支援等、実践を重ね検討していく必要がある。

●地域住民も含め、家族への認知症を正しく理解してもらうための啓蒙が必要

⇒「認知症安心ガイドブック」等を活用し、さらなる周知をしていく。

●地域住民や関係機関（かかりつけ医、ケアマネジャー等）に、チームの役割や機能についてのさらなる普及啓発

⇒各地域で築いているネットワークを活用し、早期発見・早期診断・早期治療・早期支援に向けた地域の体制づくりを推進。

今後の方向性

●モデル事業として、支援の流れ（システム検証）については、問題なく稼働したのではないか。

●事業対象者数や終了者数が想定数より少ない状況であったため、全市展開を見据えての検証まで行うことができなかった。

●平成29年度については、モデル事業（2チーム）を継続し対象地域拡大の検討を行っていきたい。